

## 小学校第 6 学年

# 国語 B

### 注 意

- 1 先生の合図があるまで、中を開かないでください。
- 2 調査問題は、1 ページから 17 ページまであります。
- 3 解答用紙は、両面に解答らんがあります。解答は、  
全て解答用紙に書きましょう。
- 4 解答は、HB または B の黒鉛筆（シャープペンシル  
も可）を使い、こく、はつきりと書きましょう。また、  
消すときは消しゴムできれいに消しましょう。
- 5 解答時間は、40 分間です。解答が早く終わったら、  
よく見直しましょう。
- 6 机の上の「個人番号票【解答用紙記入用】」をよく見  
て、解答用紙に、学校名、組、個人番号①、個人番号②  
をまちがいのないように書きましょう。



問題は、次のページから始まります。

東小学校の新聞委員会の木村さんたちは、月ごとの学校の様子を新聞にまとめて地域の方々に伝えています。木村さんたちは、次の【ふれあい新聞（六月号）】を書いていきます。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【ふれあい新聞（六月号）】

# ふれあい

6月号  
2015年(平成27年)  
5月29日  
東小学校  
新聞委員会

## 交流で広がる 心の輪

五月十二日（火）、東小学校において、地いきのおじいさんやおばあさんとふれあう交流会を開きました。

交流会では、六年生の進行のもと、「お手玉」「けん玉」「あやとり」などのコーナーに分かれて、いっしょに遊びました。



あやとりでほうきをつくったよ

かにもお話をしたり、かたをもんだりして、交流を深めることができました。あやとりのコーナーに参加した一年生の西島あやのさんは、「ほうきの形の作り方をやさしく教えてもらってうれしかった。」と、

### 子どものころ 好きだった遊び

- ・おにごっこ
- ・かくれんぼ
- ・あやとり
- ・ゴムとび
- ・お手玉
- ・こま
- ・じんとり
- ・けん玉



など

### 子どもの遊び 昔は？

交流会に参加してくださった方々五十三名に、子どものころ好きだった遊びをたずねたところ、左のような結果になりました。

交流会に参加して下さった方々五十三名に、子どものころは、体を使った遊びや、たくさん友達と関わり合う遊びなどが人気だったようです。（岩本・金田）

### 【編集後記】

多くのおじいさんやおばあさんが交流会に参加してくださり、とてもうれしかったです。昔の遊びをしながら、いろいろなお話をうかがうことができました。また交流できることを楽しみにしています。（木村）



ここにこしていました。

また、参加された中田とよさんは、

ア

心の輪が広がった一日でした。（木村・三上）

### 地いきの方々とふれあう 行事や活動の予定

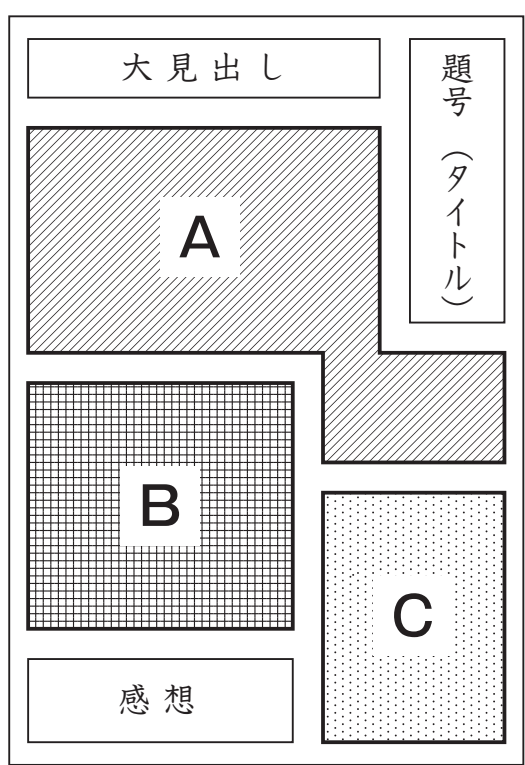
- 7月11日（土）  
東小バザー
- 9月26日（土）  
東小運動会
- 10月16日（金）  
ふれあい読書会
- 11月21日（土）  
東小祭り

行事の日が近くなりましたら、ちらしをお配りします。

地いきのみなさん、ぜひご参加ください。

一 木村さんたちは、次のような【わり付け】にして、【ふれあい新聞（六月号）】を制作しました。  
 A・B・Cにはそれぞれどのような内容が書かれていますか。その組み合わせとして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【わり付け】



- |   |   |                             |   |                             |   |                             |
|---|---|-----------------------------|---|-----------------------------|---|-----------------------------|
| 1 | A | 出来事 <small>できごと</small> の報告 | B | 紹介と案内 <small>しょうかい</small>  | C | 調査の報告                       |
| 2 | A | 調査の報告                       | B | 出来事 <small>できごと</small> の報告 | C | 紹介と案内                       |
| 3 | A | 出来事 <small>できごと</small> の報告 | B | 調査の報告                       | C | 紹介と案内                       |
| 4 | A | 紹介と案内                       | B | 調査の報告                       | C | 出来事 <small>できごと</small> の報告 |

二 木村さんたちは、次の【大見出しの候補】の三つの中から【実際の大見出し】として①を選びました。  
①の大見出しは、どのような効果をねらって、どのように表現の仕方をくふうしていますか。その説明として最も適切なものを、あとの1から3までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【大見出しの候補】

- ① 交流で広がる 心の輪
- ② お手玉 あやとり コツつかむ
- ③ 昔遊びをしてみませんか



【実際の大見出し】

- ① 交流で広がる 心の輪

1 伝えたいことの中心を明確にするために、強調したい言葉を最後に置いている。

2 読み手の興味を引くために、昔遊びをすすめる言い方で呼びかけている。

3 実際に活動した内容を具体的に示すために、遊びの種類を複数並べている。

三 【ふれあい新聞（六月号）】の

ア

の中には、あやとりのコーナーに参加した中田とよさんの感想をのせることにしました。次の【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書きます。あとの条件に合わせて書きましょう。

【中田とよさんへのインタビューの様子】

〈話した内容〉

\*  
あやとりのコーナーに参加してよかったわ。  
それはね、一年生のみんなに様々な形を教えてあげたら喜んでくれたからなの。  
みなさんも準備が大変だったことでしょうね。  
町で会ったときにはいつでも声をかけてください。  
今度の案内も楽しみにして待っていますね。



中田とよさん

〈表情や声の調子〉

- ・目を細めている
- ・明るい声

〈条件〉

- \* — 部についての理由が分かる言葉を、〈話した内容〉の中から「」を使って取り出し、その言葉と〈表情や声の調子〉の中の内容を合わせて、一文で書くこと。
- 書き出しに続けて、四十字以上、七十字以内で書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

[illegible]



問題は、次のページに続きます。

森山さんは、物事を決めることに関心をもち、次の「だれが選ぶ どれを選ぶ」という【文章】を読みました。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

# 【文章】

の内容は、あとの問いと関係があります。

## だれが選ぶ どれを選ぶ

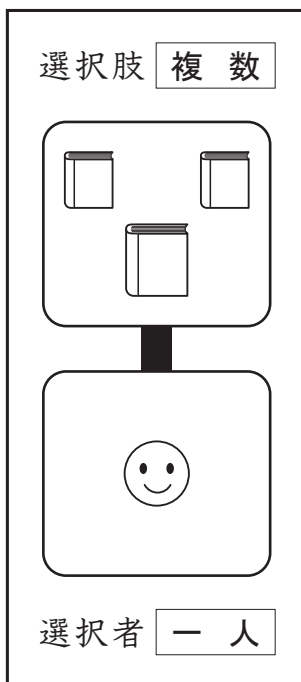
学校生活においては、学級の係や児童会の委員を決めるなど、みんなで物事を決めることがあります。物事を決めるということは、どういうことなのでしょう。

何かを決めるときには、「選択者」と「選択肢」があります。「選択者」とは、選ぶ人のことをいいます。また、選ばれるものや人のことを、「選択肢」といいます。

それでは、「選択者」と「選択肢」の関係を、具体的な場面を考えてみましょう。学校では、学校図書館にあるたくさんさんの本の中から、目的に応じて本を選ぶことがあります。この場合、「選択者」は学校のみなさん、「選択肢」は学校図書館にあるたくさんさんの本です。

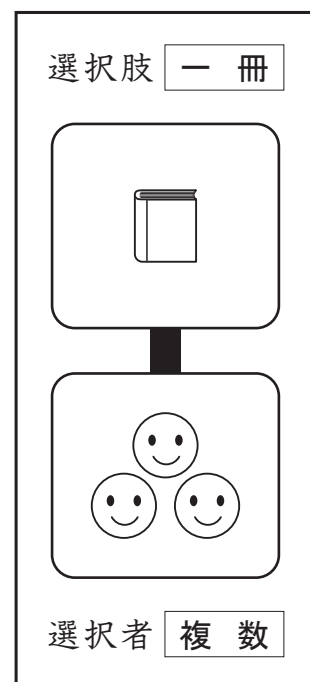
〈図1〉は、「選択者」が一人で、「選択肢」が複数の場合です。例えば、休み時間に一人で学校図書館に行って、一冊の本を借りることにしたとします。「選択者」のあなたは、「選択肢」のたくさんさんの本の中から、好きな本を選ぶことができます。このような場面では、「選択者」はあなた一人なので、どの本を選ぶかとなやむことはあっても、最後は、自分の判断で本を決めることができます。

〈図1〉



〈図2〉は、「選択者」が複数で、「選択肢」が一つの場合です。例えば、学校図書館のたくさんの中的人气のある一冊の本に何人かの人が集中するような場面です。このような場面では、それがその本を借りることにするか、折り合いをつけて決めていくことが大切です。たがいにゆずり合って解決することを、「折り合い」といいます。

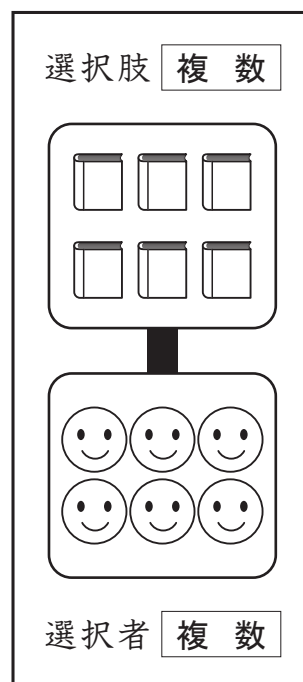
〈図2〉



最後に、〈図3〉について考えてみましょう。

〈図3〉は、「選択者」が複数で、「選択肢」も複数の場合です。例えば、学級全員で学校図書館に行き、感想文を書く本をそれぞれ一冊選ぶような場面です。このような場面では、「選択者」の一人一人が一冊ずつ本を借りることができですが、選びたい本の希望が重なることもあります。

〈図3〉



〈図3〉は、〈図1〉と〈図2〉とはちがう場面のように見えますが、実は〈図1〉と〈図2〉の両方がふくまれているといえます。〈図3〉の場合、まず〈図1〉のように、「選択者」は自分の判断で自由に一冊の本を選ぶとします。その中で、複数の人が同じ本を選んだ場合には、〈図2〉のようにだれが借りるのかを決めることになります。

これら三つの図をもとに考えると、物事を決めるときには、まずはそれぞれの人が自分で判断することが大切です。そして、それぞれの人の希望が重なったり、意見や判断のちがいが生じた場合には、たがいのことを考えながら折り合いをつけていくことが大切です。

一 森山さんは、【文章】の中の難<sup>むずか</sup>しい言葉とその意味について、次の【ノート①】にまとめています。

ア ・ イ

の中に入る内容を、【文章】の中から書きぬきましょう。

【ノート①】

| ◇                | ◇                                 | ◇                                  |
|------------------|-----------------------------------|------------------------------------|
| イ                | 選択 <sup>せんたく</sup> 肢 <sup>し</sup> | 選択 <sup>せんたく</sup> 者 <sup>しゃ</sup> |
| ⋮                | ⋮                                 | ⋮                                  |
| たがいにゆずり合って解決すること | ア                                 | 選ぶ人のこと                             |

二 森山さんは、【文章】の要旨<sup>ようし</sup>（文章で取り上げている内容の中心や、書き手の考えの中心となる事がら。）を次の【ノート②】にまとめています。

ウ

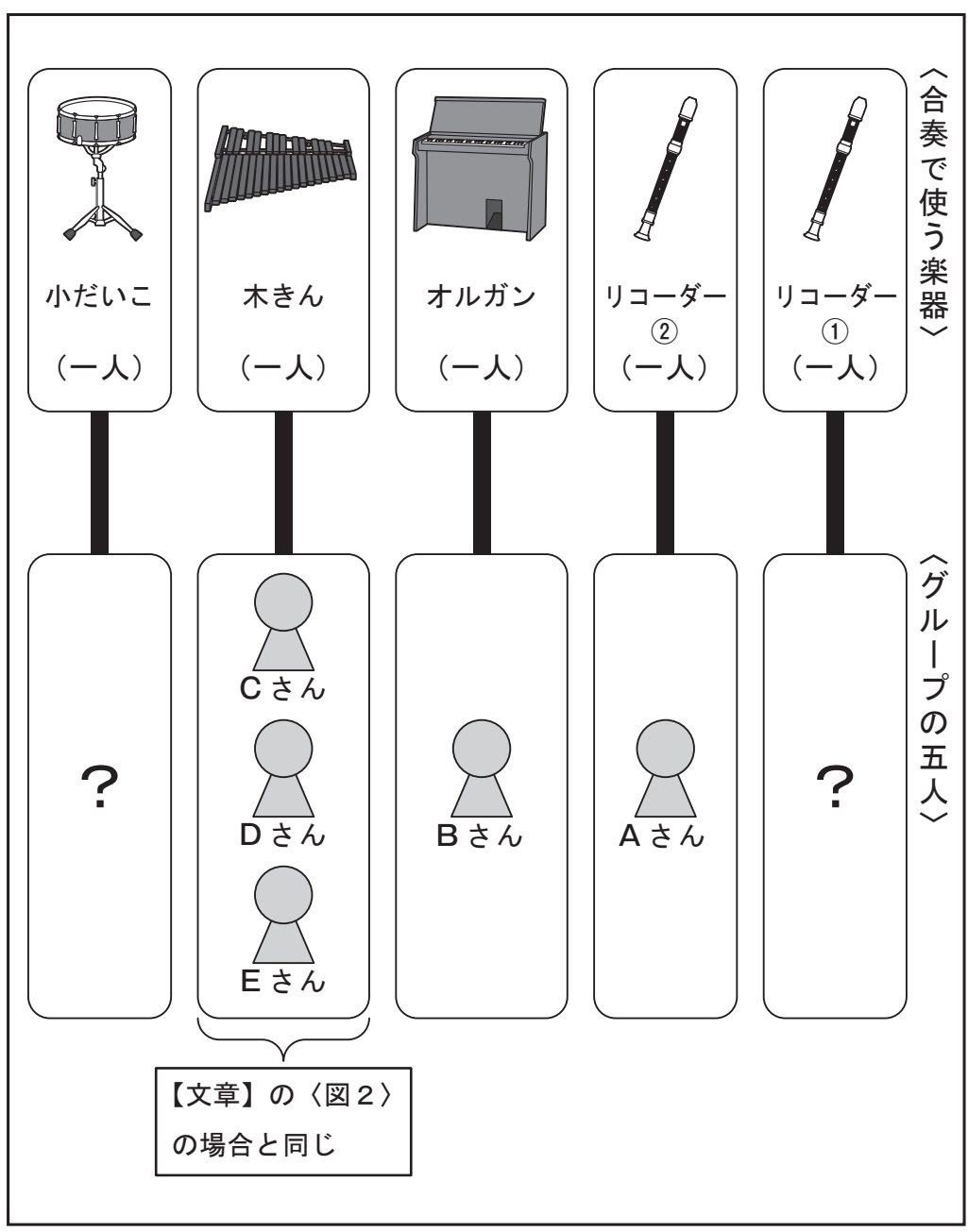
の中に入る内容を、【文章】の中の言葉を使い、六十

字以上、百字以内で書きましょう。なお、書き出しの言葉は字数にふくみます。



三 森山さんの学級では、音楽の学習でグループごとに合奏がっそうをするようになりました。そこで、森山さんのグループの五人は、それぞれの希望をもとに、担当たんとうする楽器を決めることにしました。次の【楽器の分担ぶんたん図】は、【文章】の内容を参考に五人の希望を整理したものです。あとの（問い）に答えましょう。

【楽器の分担図】 楽器一つに対して一人が担当します。



森山さんのグループでは、「希望者が一人の場合には、その人がその楽器に決まる」ということを確認しています。グループの五人は、楽器の分担をどのように決めていくことになりますか。

【楽器の分担図】をもとにし、次の条件に合わせて説明しましょう。

○「リコーダー①」「小だいこ」「木きん」という三つの言葉を使って書くこと。

- 「木きん」の決め方については、【文章】の  の中で説明している、決めるときに大切なことを取り上げて書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、八十字以上、百字以内で書くこと。なお、「しかし」から始まる書き出しの言葉は字数にふくむ。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

100字      80字

六年生の山田さんの学級では、『一休さん<sup>※1</sup>とんち話』という本を読んで、紙しばいを作り、一年生に読み聞かせをすることにしました。そこで、山田さんのグループでは、その本の中から次の【びょうぶのとらのお話】を選び、場面の様子を【四枚の絵】に分けてかきました。あとの問いに答えましょう。

## 【四枚の絵】

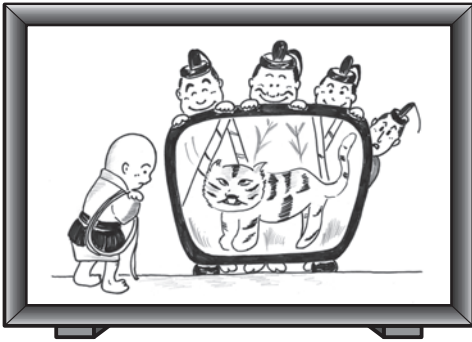
## 【びょうぶのとらのお話】

の中の1から5までは、まとまりを表しています。

〈絵 1〉



〈絵 2〉



一休さんと、とのさまの話です。  
 とのさまは、とんちで有名な一休さんを少し困らせてみようと思い、一休さんをおやしきに呼びました。そして、  
 「これこれ一休。たのみたいことがあるが、聞いてはくれぬか。」  
 「はい、なんでしょう。」  
 とのさまは、おそろしいとらの絵がかいてある、びょうぶを指さして、  
 「実は、このとらじゃ。毎晩飛び出しては、やしきの中を暴れ回るのだ。  
 一休、このとらを暴れぬように、しばりあげてはくれぬか。」  
 と言いました。

1 一休さんは、それを聞くと、  
 「かしこまりました。」

と言って、さっと立ち上がりました。そして、  
 「では、とらをしばりあげるためのなわを貸してください。」  
 と言いました。とのさまは、家来に言いつけてなわを持って来させました。一休さんは、なわを受け取り、広間のすみに下がりました。

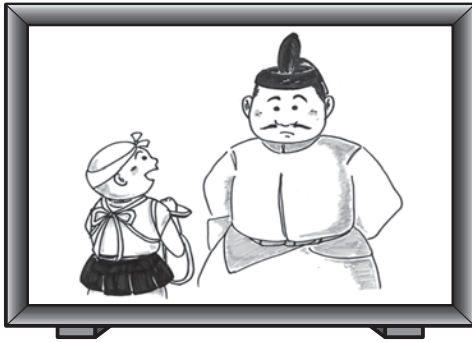
2 「では、これから、とらをしばりあげます。とのさまや、家来の方々は、びょうぶの裏に回ってください。とらが飛びかかるといけませんから……。」

とのさまと家来は、言われるとおりにしました。一休さんが、何を始めるのかと思いましたが、とりあえずびょうぶの裏に行きました。そして、にやにや笑いながら、様子を見ていました。

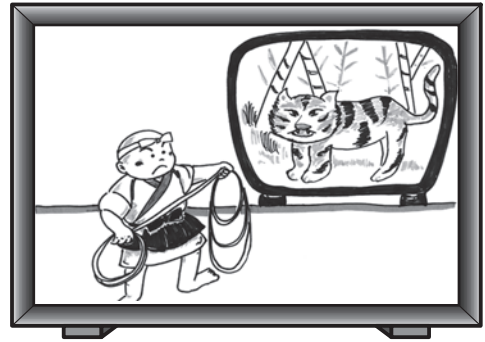
3 一休さんは、はちまきをしめ、たすきをかけて身じたくを整え、いよ



〈絵 4〉



〈絵 3〉



いよなわを手に持ち、びょうぶの前に進み出ました。それから、足をふんばり、びょうぶの前で構えて言いました。

「やい、とらめ。とのさまの言いつけでお前をしばりあげるぞ。さあ、出て来い。勝負だ。」

4 一休さんは、大まじめです。とらは、もちろん出て来ません。

「さては、おそれをなしたか。とらめ、出て来ないな。」  
そう言うってから、

「びょうぶの裏の家来の方々、そこで大声をあげて、とらを追いつけてください。出て来ないといえませんがね。」

5 それを聞いた家来たちは困りました。とのさまはおこり顔で、  
「何を言うか、一休。絵のとらが、追い出せると言うか。」  
と言いました。

「それはおかしい。先ほどのさまは、このとらが、毎晩飛び出して暴れ回るとおっしゃいました。ひとり飛び出すくらいですから、家来の方々に追いつけないわけがないでしょう。」

「ううむ。」

とのさまは、うなづいて何も言えなくなっていました。

一休さんは、続けて、

「それとも、晩にならないと、出て来ないのでしょか。でしたら、今夜、もう一度やり直しましょうか。」

それを聞いて、とのさまは、

\* 「もうよい。わしの負けじゃ。」

と言いましたとさ。

※1 「とんち」……………その場ですぐに出るちえのこと。

※2 「びょうぶ」……………部屋の中に立てて、かざりや仕切りなどにするもの。

— 山田さんのグループの三人は、だれが、どの場面を読むのかについて話し合っています。次の【話し合いの様子①】をよく読んで、あとの（問い）に答えましょう。

【話し合いの様子①】

山 田



【びょうぶのとらのお話】の内容と【四枚の絵】とを関係付けながら考えよう。

～（絵１）についての話し合い…省略）～

小 川



【びょうぶのとらのお話】の中の  の部分を、（絵２）と（絵３）に分けてかいたよね。（絵３）の始まりをどこにしたのか確認かくにんしてみよう。

高 木



（絵２）は「一休さんとのさま、家来とがやりとりをしている場面」、（絵３）は「とらを追いつと動き始めた場面」にしたよね。

～（話し合いが続く）～

（問い）

（絵３）の場面は、【びょうぶのとらのお話】の  の中の１から５までのどこから始まりますか。最も適切なものを一つ選んで、その番号を書きましょう。

二 山田さんたちは、【びょうぶのとらのお話】のおもしろさについて、一年生にどのように伝えたらよいか話し合っています。次の【話し合いの様子②】をよく読んで、あとの（問い）に答えましょう。

【話し合いの様子②】



山田 一休さんが家来たちに、「とらを追い出してください。出て来ないといばれませんからね。」と言ったところがおもしろいよね。



小川 私わたしもそう思うわ。とのさまが言った無理なことに対して、一休さんがちえを働かせているところよね。とのさまはおこつて言い返したけれど、一休さんに「それはおかしい。」と言われて、「ううむ。」とうなってしまうね。



高木 最後に、とのさまは、「もうよい。わしの負けじゃ。」<sup>\*</sup>と言ったけれど、どんな気持ちだったのかな。どんなふうに読むといいかな。いろいろな読み方を考えてみよう。

（話し合いが続く）

（問い）

「もうよい。わしの負けじゃ。」<sup>\*</sup>を、あなたならどのように声に出して読みますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 声に出して読むときにくふうすることを書くこと。くふうすることとしては、例えば、声の大きさや高さ、読む速さなどがある。
- なぜそのように読むのかという理由を書くこと。理由には、あなたが想像したとのさまの気持ちを取り上げること。
- 四十字以上、八十字以内にまとめて書くこと。

[illegible]

40字

これで、国語Bの問題は終わりです。





